

高齢者に向けた防災教育の取り組み

○(株)荒谷建設コンサルタント フェロー 山下祐一
中電技術コンサルタント(株) 正会員 古川 智

復建調査設計(株) 藤本 睦
(株)ヒロコン 青原啓詞

1. はじめに

中国地方では、毎年のように多くの土砂災害が発生し、大きな被害を受けている。土砂災害による被害を軽減するために、(社)建設コンサルタンツ協会中国支部では防災教育を実施している。これまで、広島市内の高齢者を対象とした防災教育を3ヶ所で行ったので、その防災教育結果や効果について報告する。

2. 防災教育の必要性

地域の防災力を向上させるためには、人・技術・データの各項目を改善することが重要とされている。特に、人についての課題が顕著であり、地域の研究者や技術者が不足していることや、地域住民の意識が不足していること及び防災にかかわる広報や防災教育も不足しているのが現状である。そこで、地域住民に対して防災に関する実務専門家が実際に地域活動の中に入り、防災教育を行ってきた。防災教育は、過去3年間、小学校や中学校での活動のほか、高齢者を対象とした教育も行っている。ここでは、これまで実施した高齢者の防災教育結果について報告する。

3. 高齢者に向けた防災教育

高齢者の防災教育は、平成17年～19年に、広島市安佐北区の高陽地区と安佐地区で行った。この地区は過去にも災害が多発している地区であり、参加者の中には災害経験者もいた。

防災教育は(財)広島市ひと・まちネットワークの共催事業として申請し、公民館から講座希望が寄せられて実施している。これまでの高齢者(65歳以上)の実施箇所、参加者は次のとおりである。

平成17年度 広島市安佐北区高陽地区 16名

平成18、19年度 広島市安佐北区安佐地区

8名、27名(合計35名)

防災授業は「みんなで考えよう土砂災害」という題目で、講義と演習に分けて実施した。

講義は土砂災害と警戒・避難について話をした。土砂災害は、土石流とがけ崩れを中心に、近くで発生した災害事例と危険箇所を紹介し、警戒・避難は雨量情報と土砂災害の関係や避難情報の種類などを説明した。演習はハザードマップの作成を行った。ハザードマップ作成は自分の家の場所を探し、土砂災害危険箇所の図面作成、避難所の位置や避難路の確認を行った上で、それらの成果をグループ毎に発表した。

ハザードマップ作成では、これまでの災害経験から、「この場所が崩れた」「土砂はこの付近まで到達した」など具体的な被害事例もたくさん聞くことができ、防災教育をする上での参考となった。ただし、広島市安佐北区

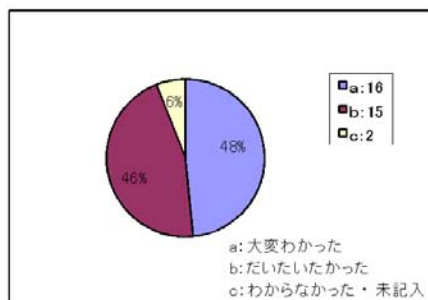


写真-1 防災教育講義の様子

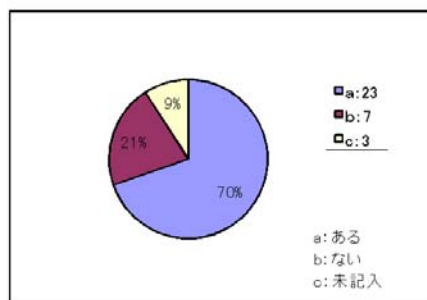


写真-2 防災教育、ハザードマップ作成の様子

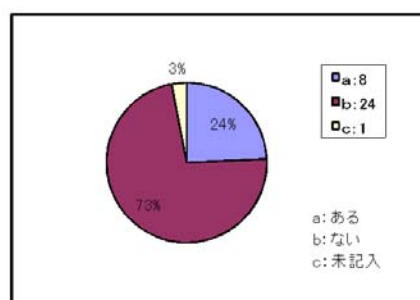
Q1: 講座の内容はどれくらい
理解できましたか？
(回答者:33)



Q3: 最近災害がおりそうだと
感じたことはありますか？
(回答者:33)



Q4: 今まで避難したことはありますか？
(回答者:33)



の安佐地区周辺では、いたるところが土砂災害の危険箇所になっており、事前避難が欠かせないことが明らかとなった。

最後のまとめの時には、実際に災害で親族を亡くされた方が、そのときの避難方法について話をされた。防災教育を終えて強く感じたことは、高齢者の方の中には災害を直接経験された方が多く、その経験を整理してまとめ、若い人たちに伝えていけば、自然に災害は軽減できるのではないかと考えた次第である。

4. 防災教育アンケート結果

広島市安佐北区安佐地区でアンケート調査を行った(図-1)。防災教育を受けた35人に対し、回答頂いたのは33人、回収率94%であった。授業の理解は91%の方が「分かった」と答え、感想にも「分かり易かった」と書いて下さった方が多かった。災害の経験が理解を深めていると思われる。

「最近災害が起りそうだと」感じた人は70%と高く、避難所の位置や避難路に関しては80%の人が知っている」と答え、授業の成果が表れたものと考えられる。今まで実際に避難したことがあるかについては24%の人がありと答え、避難の割合も多い。

アンケート調査の感想として「大体わかった、聞いて良かった」が多くを占め、具体的な感想として次のようなものがあつた。

「災害の恐ろしさを昨年感じました。これからこんな事の無いよう祈るばかりですが、災害は忘れた頃に起きるというのを平素考えておかないといけない事を感じました。」

「何れにしても災害が非常に起りやすい地球に住んでいるので、日頃から気を付けて行動しなければと感じています。このような講話等には積極的に参加します。」

5. おわりに

高齢者に向けた防災教育の取り組みとして、次のような結果と成果が得られた。

- ①高齢者の方は災害経験をよく覚えており、災害や警戒・避難についても理解が深く、貴重な体験も多くある。
- ②高齢者で元気な方は、地域の災害軽減の語り部として活躍できる人がいる。
- ③土砂災害危険箇所が連続するところでは、どう避難するか課題が残った。
- ④これまでの災害経験を通して、地域の危険箇所を絞り込むことも可能である。

高齢者は災害時要援護者として位置づけられているが、災害経験のある元気な高齢者は、防災情報や防災ネットワークを構築する上でどのように活用するかも課題と考えられる。

Q5: 今日の講座を聞いて災害が起りそうな
時、うまく避難ができますか？
(回答者:33)

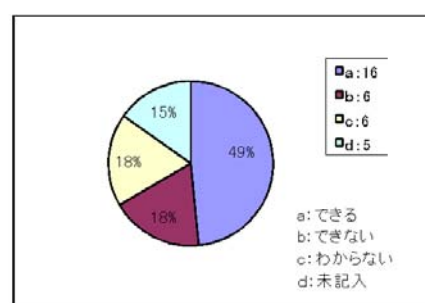


図-1 防災教育アンケート結果図